

2019年12月24日

JVOAD

令和元年台風19号被害への対応状況等について（12月24日12:00現在）

台風19号で被害を受けた各地で情報共有会議が開催されています。福島県いわき市、栃木県宇都宮市、宮城県丸森町では、市町域の情報共有会議も行われており、JVOADからもスタッフが参加し、会議の中で共有された課題に対して関係団体と解決を図っています。復旧・復興にあわせて、今後の体制や開催頻度などを見直している地域も多く、今後変更になる可能性があります。

本日12:00時点で把握した状況についてご報告します。

○最新の被害状況（12月12日15時現在 総務省消防庁資料）

<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/taihuu19gou63.pdf>

人的被害：死者99名（うち災害関連死2名）、行方不明者3名、重傷者40名、軽傷者444名

住家被害：全壊3,081棟、半壊24,998棟、一部損壊26,284棟、床上浸水12,817棟、床下浸水24,472棟

*10月25日の大雨による被害も含む

*今後の罹災証明書発行に伴い、数字は変動する見込みです

○情報共有会議の開催

JVOADのホームページでも各地の情報共有会議の開催予定一覧を定期的に更新しているので、あわせてご確認ください。

○現地の状況

①東北方面（宮城県・福島県）

- ・宮城県丸森町では、在宅避難の状況が少しずつ把握されてきているが、まだお風呂にも入れない、洗濯もできない状況で暮らしている住民の方もいるため、外部支援との調整を行っている
- ・福島県いわき市では、暖房器具を使用するようになり自宅内のカビが増えている、咳がひどくなっている人もいて、カビの影響なども懸念される
- ・保育園に通えなくなった子どもや送迎ができなくなった保護者もいることから、子どもの預かりの依頼が増えている、いわき市の方でもサポートを始めている

②北関東（栃木県・茨城県）

- ・栃木県では、災害前から検討していた「栃木県内の災害時に関するネットワーク」の検討会を実施、今回の災害も踏まえて、JVOADも参加しながら同時に進めていく
- ・栃木県足利市では、ケアマネ協会が在宅避難者の調査を実施する予定
- ・茨城県では、大子町で生活支援相談員（地域支え合いセンター）を設置予定
- ・NPOが中心となり、電気毛布などの配布を地域の区長などと相談しながら進めている

③長野県

- ・12月20日をもって、避難所は全て閉鎖
- ・効果的な支援を実行するために、行政、NPO、社協等が情報を共有し、相互に連携補完する体制として「ONE NAGANO 復興協働会議」が発足
- ・民間主体の交流拠点として、「まちの縁側ぬくぬく亭」が開設、来年3月まで毎日オープン予定

④千葉県

- ・地元NPOを中心に「千葉南部災害支援センター」が設置され、社会福祉協議会や技術系支援団体と連携しながら長期的にブルーシートの張り直しや倒木などの依頼に対応していくため、引き続き、講習会の開催に向けた調整をJVOADもサポートしながら行っている

○災害ボランティアセンター

複数の市町村で、引き続きボランティアセンターが開設

開設状況については、全国社会福祉協議会 被災地支援・ボランティア情報を確認ください

* 年末年始の予定なども確認できます

URL : <https://www.saigaivc.com/>

○今後について

JVOADとして、年明け以降も引き続き、宮城県、福島県、長野県にはスタッフを常駐、その他地域は出張ベースで対応していきます。仮設への引っ越しに伴うコミュニティ支援、在宅避難の方の状況把握など、必要な支援はまだありますが、地域支え合いセンターの設置などもされ始めていることから、JVOADとしても、地元を中心に支援の「モレ・ムラ」のないように各関係団体、機関と連携して支援にあたりたいと思います。